

平成28年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 広徳 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成28年4月19日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語, 数学)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 数学)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none">・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

- (2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

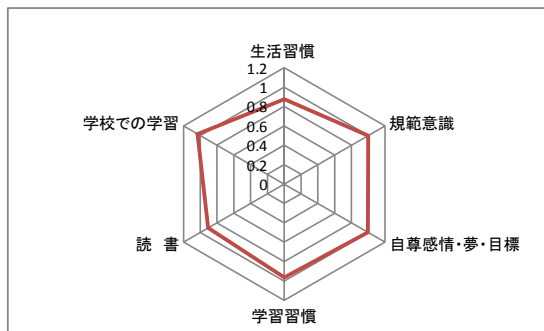
(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 数学A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		数学A		数学B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	24.3	74	5.8	64	21.2	59	6.1	41
全国	25.0	76	6.0	67	22.4	62	6.6	44

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	短答式の問題は全国平均より高く、聞く能力も全国を上回っている。 全体的には全国よりも下回っている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	全体と部分との関係に注意して話を構成する問題の正答率が、全国平均より高かった。	
	努力が必要な問題	集めた材料を整理して文章を構成する問題では、適切なものを選択できず正答率が低かった。	
国語B	全体的な傾向や特徴など	記述式の問題の無回答率は低く、書こうとする意欲がある。 全体的に全国より下回っている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	根拠を明確にして自分の考えを書く問題の正答率が全国平均より高かった。	
	努力が必要な問題	目的に応じて文章を要約する問題では、適切なものを選択できず正答率が低かった。	
数学A	全体的な傾向や特徴など	全国平均正答率より下回っている。 数学的に処理する問題に無回答が多い。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	簡単な計算問題や図形の辺の位置、角の大きさを求める問題が正答率が高い。	
	努力が必要な問題	文字式や関数で、文やグラフから式に表わす問題の正答率が低い。	
数学B	全体的な傾向や特徴など	全国平均正答率より下回っている。 思考力を要する問題や記述式の問題に対するの苦手意識が強く、基礎基本が定着していないので応用問題を解く力が備わっていない。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	与えられた情報から必要な情報を適切に選択し、処理する問題。	
	努力が必要な問題	問題を解決する方法を数学的に説明する問題や、筋道を立てて証明する問題が、特に正答率が低かった。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・校則を守ると答えた生徒は、全国より10%多く、将来の夢や目標を持つ、人の役に立つ人間になりたいと思う生徒は全国よりやや多い。 ・テレビゲーム、スマートフォン等に接触している生徒は全国比で10%以上多く、家庭学習の時間は全国よりかなり少ない。 ・読書が好きな生徒は全国平均より低く、あまり読書をしないう生徒の割合は、全国比10%程度多い。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

基礎的・基本的な知識や技能の確実な定着を図るために授業改善に取り組み、「読む」「書く」活動とおして、思考力や判断力・表現力等を育成する。各教科にとどまらず、道徳や特別活動の時間にも「読む」「書く」活動を積極的に位置づけるとともに、自己の意見等を発表したり説明したりする活動を仕組む。

② 家庭生活習慣等に関する取組

調査結果では、就寝時間が不規則だったり、朝食を食べていない生徒の割合が全国より高い。家庭学習や読書の習慣を定着させるため、家庭と連携を取りながら、宿題のスタンダード化や朝読書に取り組み、また、学校図書館の活用を推進することで、家庭学習や読書の習慣を定着させ、学力の向上を図る。